飲酒運転させないTOKYOキャンペーン(2018)

画像提供：東京都
(各画像のキャプションは、JD共済による)

当初予定されたブースより、かなり広いスペースを取って
展示された書道作品たち。

テーブルにはさまざまな啓発物が置かれ、会場の各ブースを回るスタンプラリーのコースのひとつになっていました。
ポケットティッシュにも書道作品を活用した啓発チラシが挟み込まれ、展示された作品とともに、来場者に訴えかけました。
ポケットティッシュには、「飲酒運転根絶」と、
「お酒を飲んだら代行で帰りましょう」の文字が印刷されています。

作品を指さしながら、子どもたちのメッセージを読む来場者のお二人。

作品を前に、書道コンクールについて説明を受ける来場者。

飲酒運転の犠牲となったメッセンジャーの前で、取材を受けているのは「いのちのミュージアム(※)」のスタッフで、
メッセンジャーのお母様です。

(※) 特定非営利活動法人「いのちのミュージアム」とは
犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどによって、理不尽に命を奪われた犠牲者が主役となり、いのちの大切さを伝える活動、「生命（いのち）のメッセージ展」を企画・運営されています。
犠牲者ひとりひとりの等身大の人型パネルは『メッセンジャー』と呼ばれ、本人の写真や家族の言葉を胸に貼り、足元には、彼らが「生きた証」である靴を置いて、見る人に静かに語りかけます。

メッセンジャーとお母様

お母さんと一緒に、書道作品のメッセージを読むお子さん。
意味を尋ねているのでしょうか。この子たちに飲酒運転の恐ろしさと罪を教えるのは大人の努めです。

チアチームも、ピーポくん、パックンマックンと一緒に。

「マナー違反じゃない　犯罪なんだ」
飲酒運転は犯罪です。
軽く考えることが、飲酒運転による悲しみを作ります。
運転代行料金の数千円を惜しんで、背負う代償と償いきれない罪の大きさは、天秤に掛けずともわかります。

歌舞伎の隈取が、飲酒運転ににらみを利かせています。

パックン・マックンとピーポくんが、警察官と掛け合いで飲酒運転根絶を訴えます。

近年、自転車が第一当事者の重大事故が増えています。
シュミレータを使うと、自転車の飛び出し事故などが起きやすい注意ポイントが、非常によくわかります。
シュミレーションであっても、飛び出す人や自転車、車に、思わずヒヤリとします。
ひとたび事故を起こせば、高額な賠償責任を負うこともありえます。
自転車も車ですから、お酒を飲んで自転車に乗っても飲酒運転にあたります。安易に考えてはいけません。
交通ルールを守ることは「自分の身を守ること」なのです。